

令和7年度 狭山市立狭山台中学校 自己評価書

1 本年度の重点目標

(1)学力向上	(2)不登校生徒の減少	(3)豊かな心の育成
(4)学校運営協議会の深化	(5)働き方改革の一層の推進	

2 本年度の経営方針

生徒の心に灯をともし学校
 ○全教職員の知恵と情熱を結集し、生徒一人一人の個性を尊重しつつ、確かな学力と豊かな人間性を育む。
 ○地域社会との連携をすすめ、いじめや不登校などの現代的課題に組織的に対応し、すべての生徒が安心して自己実現できる学校づくりを推進する。

3 自己評価結果

【評価の目安】A:よくできている(90%) B:概ねできている(85%以上) C:あまりできていない(70%以上) D:できていない(70%未満)

領域	番号	評価の観点	達成状況	改善の方策
1 学校教育目標	1	共通理解が図られ、実現の努力がなされたか。	A	保護者から高い評価をいただいている。校内研究を継続し、授業力のさらなる向上を図ることで教育目標の実現につなげる。
	2	保護者への浸透が図られたか。	A	
	3	経営方針について共通理解が図られ実現の努力が図られたか。	A	
2 校務分掌	4	分掌の内容や責任が明確であったか。	A	組織として分掌が機能していたが、一部教職員に負担が集中しているため、分掌の再編も含めて改善を図る。
	5	分掌が活発に機能し各分掌の連携が図られたか。	B	
	6	各分掌の組織が合理的に編成されているか。	B	
3 教育計画	7	学校教育目標や経営方針を具体化するために編制されたか。	A	教職員の働き方改革とのバランスを考えた教育計画の編成を進めた。開かれた学校づくりの観点で教職員の当事者意識醸成に向けて学校運営協議会を有効に活用していく。
	8	年間授業日数が適切に配当されていたか。	A	
	9	授業日数の確保の努力が十分なされたか。	A	
	10	開かれた学校づくりに努力がなされたか。	B	
	11	教員が教育計画実施の担い手であるという自覚を持てたか。	B	
4 学年学級経営	12	時間割により十分な成果を得ることができたか	A	どの学年でも、生徒の主体性を重視した学年・学級経営を進められた。施設の老朽化はあるものの、無言清掃の取組の成果もあり、衛生環境が維持されている。清掃に関連する評価は昨年度比で教職員・生徒ともに伸びが見られた。
	13	学校・学年・学級経営の方針に一貫性があったか。	A	
	14	意図的、計画的に学年、学級経営が進められたか。	A	
	15	児童生徒の自己決定の場が多く設定されたか。	A	
	16	教室環境の整備に努力がなされたか。	A	
	17	朝の会、給食、清掃、帰りの会などに工夫改善が加えられたか。	A	
	18	朝の読書への取り組みがしっかりなされたか。	A	
5 学習指導	19	児童生徒が進んで学ぶ授業の改善がなされたか。	A	教員の授業力向上を核にした校内研究を進める中で、自由進度学習や反転学習といった新たな授業形態を模索しながら授業改善を図ることができた。授業内における生徒の主体性については向上がみられるものの、家庭学習については大きな課題が残っているため、自主学習ノートの活用について研究を進めていく。
	20	基礎的・基本的内容を身につけさせるような工夫改善がなされたか。	A	
	21	児童生徒の長所を伸ばす評価の工夫がなされたか。	A	
	22	視聴覚・情報機器の積極的、効果的な活用がなされたか。	B	
	23	教員数、施設、設備などの実情に応じたコースの設定がなされたか。	B	
6 選択教科	24	児童生徒の個性を生かした学習内容、学習方法の工夫がなされたか。	B	道徳の時間を全校統一し、指導者をローテーションして取り組むことで、充実した道徳教育が展開できた。
	25	全体計画を理解し、全教育活動をとらして道徳教育の実践がなされたか。	A	
7 道徳教育	26	道徳の時間が生徒の実態把握に基づき、計画的に実践されたか。	A	生徒会・委員会活動を中心に生徒の主体性を重視した取組を展開できた。若干名ではあるが、地域の防災訓練等への生徒さんかも実現したので、今後さらに発展させていく。
	27	全体計画を理解し、児童生徒の自己決定の場が多く設定されたか。	A	
	28	全体計画が、児童生徒の実態把握に基づき、計画的に実施されたか。	A	
	29	児童会生徒会活動などの特性が理解され、児童生徒の自己実現がなされたか。	A	
8 特別活動	30	奉仕活動の活発化が図られたか。	B	

領域	番号	評価の観点	達成状況	改善の方策
9 学校行事	31	学校行事が計画的に実施されたか。	A	内容を精査しながら効果的に実施することができた。準備運営に係る教職員の負担は大きい。2学期に行事が集中しすぎないように長期的計画で年間計画の修正を進める。
	32	学校行事の特性を生かし、生徒の自己実現が図られたか。	A	
	33	職員の仕事分担が適切であり、お互いに協力がなされたか。	B	
10 生徒指導	34	全体計画に基づき、計画的な指導がなされたか。	A	生徒指導関係の対応が職員間でぶれてしまうことがあったため、共通理解をさらに深められるよう生徒指導部を中心に情報発信に努める。下校時及び下校後のルール・マナーについては、道幅いっぱい横に広がって歩いたり、夜間に公園で騒いだり等で近隣からの苦情をいただくこともあったため、教職員以外で見守ることが出来る地域の体制づくりに努める。
	35	職員に共通理解があったか。	B	
	36	カウンセリングマインドを心がけて指導がなされたか。	A	
	37	教育相談活動が計画的に実施されたか。	A	
	38	基本的な生活習慣が定着するよう指導がなされたか。	A	
	39	児童生徒が意欲的に清掃活動を行うよう指導がなされたか。	A	
	40	いじめや不登校の指導が積極的になされたか。	A	
41	不登校生徒が出ないよう努力がなされたか。	A		
42	家庭、地域、諸機関との連携が密に行われたか。	B		
11 進路指導	43	全体計画に基づき、計画的な指導が行われたか。	B	3年間を見通した学校としての進路指導の計画を再度練り直す。1・2年次から適切に進路情報を発信していくことで、家庭との連携につなげる。
	44	児童生徒が自己の生き方について考えることのできる授業や指導がなされたか。	A	
	45	家庭との連携が行われたか。	B	
12 保健・安全指導	46	保健観察が丁寧に行われたか。	A	新体力テストでは県平均を下回る項目が多く、大きな課題となっている。体育の授業を中心に、体力向上のためのプログラムを計画的に展開することで改善を図る。歯の治療に関する報告は適切に行っているものの、実際の治療につながらない家庭が一定数あるため、生徒自身の意識を高められるよう健康教育を強化する。
	47	児童生徒の危険な行動【予測されるものを含めて】に対して適切な指導がなされたか。	A	
	48	健康や体力向上に進んで取り組む指導がなされたか。	C	
	49	治療が必要な児童生徒に適切に治療報告がなされたか。	B	
	50	事故に対する対応が適切になされたか。	A	
	51	性に関する指導が共通理解のもとに行われたか。	A	
52	給食指導が適切になされたか。	A		
13 職員会議	53	開始時刻が守られたか。	A	企画委員会による適切な議論を経ることで、効率よく且つ効果的に職員会議を運営できた。職員の問題意識の醸成については、自己評価の在り方と関連付けることで強化していく。
	54	職員が問題意識を持って臨めたか。	B	
	55	議案の内容や提案の仕方が適切であったか。	A	
	56	建設的な意見が述べられ、よりよい会議の進行に協力的であったか。	A	
	57	会議の内容がよく理解され、決定されたことが責任持って実行できたか。	A	
	58	自己評価シートの内容が適切に進められたか。	B	
14 教職員の 勤務	59	教育公務員としての自覚を持ち公務員倫理のもと勤務の厳正に努めたか。	A	教職員の時間外在校等時間は徐々にではあるが減少している。しかし、月に80時間・100時間を超えてしまう職員もいるため、健康維持のためには分掌の見直し等によって大幅な改善を図る。生徒のあいさつについては、満足できる水準にないため、教職員が範を示す体制を強化する。
	60	ゆとりを持った出勤がなされたか。	B	
	61	服装、言葉遣い、挨拶等は適切であったか。	B	
	62	出張や研修の報告が速やかに行われたか。	A	
	63	組織の一員としての自覚に基づき一人一人の責任が果たされたか。	A	
64	健康維持増進のための努力がなされたか。	C		
15 校内研修	65	研究主題が児童生徒・地域の実態や課題を踏まえた適切なものであったか。	A	1月20日の本発表に向けて、教職員の主体性が徐々に見られるようになった。「令和の日本型学校教育」の実現のために求められる新たな手法を取り入れながら授業改善を図っている最中であり、生徒の変容については、今後継続して見ていくものとする。
	66	研究組織や進め方は研究内容に応じて合理的・機能的であったか。	B	
	67	教職員が意欲的に取り組んでいたか。	B	
	68	研究の結果、児童生徒の変容が見られ、子供のためになったか。	B	
	69	研究内容が日々の指導の中に生かされ、教員にもしっかり身に付いたか。	B	
70	研究の成果を次年度に生かす見通しができたか。	A		
16 施設設備	71	施設設備が丁寧に正しく利用できたか。	A	不要備品の廃棄等も適切に進められた。無言清掃の文化によって、生徒も環境整備の意識が醸成されている。刃物や薬品等の危険物については、確実な施錠と管理簿を用いた管理体制が徹底できている。
	72	備品の所在数量使用方法などが明確に把握され、有効に利用されたか。	A	
	73	使用後は施錠等が確実になされ、しっかり後始末ができたか。	A	
	74	掲示施設が有効に活用され、掲示教育が積極的になされたか。	A	
	75	環境整備に生徒も積極的に参加し、積極的な活動がなされたか。	A	
17 学校事務	76	出勤簿は毎朝、押印されたか。	A	出張や提出物の期限等を一覧化・見える化することで、余裕を持った文書作成ができる体制を確立する。
	77	旅行命令簿はその都度、適切に記入されたか。	A	
	78	出席簿は毎日記入され、月ごとの集計は滞りなく行われたか。	A	
	79	文書は事前に校長に提出し、点検を受け、期限までに発送されたか。	B	
80	現金の取り扱いが細心の注意が払われ、会計事務は適切に処理されたか。	A		
18 PTA 家庭 地域	81	家庭訪問・保護者会等は適切に計画され遂行されたか。	A	地域への参加は今後の課題。教職員の負担軽減とのバランスを図りながら進めていく。
	82	学年・学級便り等の発行は適切になされ、保護者への情報提供は適切であったか。	A	
	83	地域や家庭を積極的に理解するよう努力されたか。	B	
	84	積極的にPTAや地域の活動へ積極的に参加したか。	C	
19 部活動	85	部活動の指導は計画的に適切に行われたか。	A	引き続きガイドラインの順守を徹底する。
20 総合	86	内容は児童生徒の興味をそそるものであったか。	B	3年間の見直しを持てる計画を明示することで生徒の興味を高める。図書館司書と連携して図書室の活用を促す。
	87	計画に沿って実施できたか。	B	
	88	図書室・コンピュータ室等の利用は計画的に適切に行われたか。	B	